

いろいろな経験を礎に

小児科医から公衆衛生医師になって、4年ちょっと経ちました。いろいろありましたが、本当にあっという間でした。公衆衛生医師としてのこれまでを振り返ってみました。

小児科医から公衆衛生医師へ

私は、小児科医として勤務したあと、公衆衛生医師となりました。小児科医の仕事は、楽しく充実したものでしたが、臨床から少し離れたかったときに頭に浮かんだのが公衆衛生医師でした。学生時代は、正直まったくと言っていいほど公衆衛生に興味はありませんでした。しかし、臨床医として働くうちに、患者さんの病気を治療するのではなく、病気にならないように予防することに携わりたいと徐々に感じるようになりました。小児科医のときに行っていた予防接種や保護者への説明などが、病気の予防につながっていたとは思いますが、患者さん一人ひとりではなく地域全

体を対象に仕事をしてみたいと感じ、公衆衛生医師になりました。

熊本県に入って2年半は本庁で勤務しました。本庁では、感染症対策や食品衛生を所管する健康危機管理課に勤務しました。健康危機管理課では、県の新型インフルエンザ対策計画や健康危機管理マニュアルの改定などのいろいろな仕事をさせていただきました。入庁当時、起案、令達といった言葉の意味さえわからない状態でしたが、一スタッフでしたので、予算書の作成、契約、文書管理といった業務から出先機関の工事に関することまでさまざまな業務を担当しました。このような、地域保健とあまり関係のない業務で学んだ知識や仕事の進め方が、保健

所長となったあたりもいろいろと役に立っており、貴重な経験を本庁でさせてもらったと思っています。

所長としての仕事もあまり理解していないままに保健所長になってしまいました。特に保健所長としての仕事については、見本となる他の保健所長の下で働いたことがありませんでした。何をすればいいのか、まったくといっていいほどわかりませんでした。最初に勤務した保健所は半年で異動となってしまったので、正直何もすることができませんでした。現在の保健所に勤務してからは、地域のさまざまな職種の方と接点をもつ中で保健所長としての役割が徐々にわかってきたような気がします。また、私は、保健所に勤務する唯一の医師でもありますので、特に地域医師会や基幹病院と協議する場には、積極的に出て行くようにしています。そういった中で、地域の先生から「所長はフットワーク軽いね」「保健所長さんは数年で異動するけど、先生はしばらくいてね」と言われることもあり、なんとか保



熊本県南広域本部球磨地域振興局保健福祉環境部長（人吉保健所長、球磨福祉事務所長）

小宮 智

福岡県出身。平成9年熊本大学卒業後、小児科医として勤務。17年熊本大学大学院医学研究科修了。22年熊本県に採用。健康危機管理課、宇城保健所を経て、25年より現職。

管内の農場で発生した鳥インフルエンザへの対応

私が保健所長として勤務してからの最も大きな出来事と言え、今年4月13日に管内の農場で発生が確認された高病原性鳥インフルエンザ（H5N8）です。鳥インフルエンザ発生農場（表1）における端緒は皆さんの死亡数が増加したことで、4月12日15時30分に農場から家畜保健衛生所に通報されています。発生に農場から家畜保健衛生所に通報されています。発生に農場から家畜保健衛生所に通報されています。

表1 鳥インフルエンザ発生農場の概要

	所在地	飼養羽数	用途
発生農場	球磨郡多良木町	56,000羽（45日齢）	肉用鶏
飼養者が同一の農場*	球磨郡相良村	56,000羽（17日齢）	肉用鶏

*飼養者が同一の農場も疑似患者の発生農場と判定された

表2 鳥インフルエンザ発生時における発生当初の保健所の動向

日時	農場での防疫措置等の動向	健康調査における人吉保健所の動向
4月12日(土)	15:30 農場から家畜保健衛生所へ通報	
	18:50 家畜保健衛生所による現地調査	
	19:00 保健所長へ第一報、職員へ順次連絡	
	20:30 地域支援対策本部に職員参集	
	20:45 簡易検査で陽性反応	
21:20		保健所において健康調査の準備開始
4月13日(日)	5:00	健康調査会場に向い保健所出発
	5:30	健康調査会場において健康調査の準備開始
	6:30	健康調査会場での防疫作業従事者に対する健康調査開始
4月14日(月)	8:00 PCR検査により疑似患者確定	
	10:30 農場において防疫作業に着手	農場関係者に対する健康調査
	3:50 相良村農場での殺処分終了	
4月15日(火)	19:00 多良木町農場での防疫措置完了	
4月16日(水)	7:30 相良村農場での防疫措置完了	
	13:35	健康調査会場での防疫作業従事者に対する健康調査終了

表3 鳥インフルエンザ発生に伴う人吉保健所の主な対応

- 農場関係者の健康調査
- 防疫作業従事者の健康調査
(他保健所、本庁等と実施)
- 防疫作業従事者への防護服着脱支援
(他保健所、本庁等と実施)
- 食(鶏肉・鶏卵)の安全・安心に向けた取り組み
(地域振興局総務課、本庁、食品衛生協会等と実施)
- 農場関係者の心のケア

表4 鳥インフルエンザ発生時に行った健康調査の概要

- 健康調査の対象者
 - 農場関係者 4人
 - 防疫作業従事者 1,518人
(県職員、市町村職員、民間団体等)
- 健康調査の内容
 - 農場関係者
 - 発生確認直後の健康状態の確認等
 - 【内容】インフルエンザ様症状の有無の確認、タミフルの予防投与等
 - 直接接触後10日間の健康観察
 - 【内容】電話により、発熱、咳等の症状の有無の確認
 - 【結果】有症状者0人
 - 防疫作業従事者
 - 作業従事前後の健康診断等
 - 【内容】問診、検温、血圧測定、診察、タミフルの予防投与等
 - 【人員】医師、保健師、薬剤師、事務等 計86人
(人吉保健所、他保健所、本庁等の熊本県職員)
 - 作業従事後10日間の健康観察
 - 【内容】本人が、毎日記録票に体温、咳等の症状の有無を記入し、発熱等の症状が出現した場合は、勤務地を管轄する保健所等へ連絡
 - 【結果】・体調不良者(感冒様症状等を呈した者)18人
・要観察例(38℃以上の発熱および急性呼吸器症状がある者)0人

服着脱支援ですが、これらの対応では問題点もありました。

まず、対応する人員の不足です。これは、防疫作業従事者の数が多かったこと、殺処分などの防疫作業が24時間体制で実施されたことが影響しています。健康調査会場では、総括、連絡調整、受付、問診、診察、服薬指導、防護服着脱支援などの役割の人員が必要になります。防疫作業従事者の数に応じて、役割ごとに何人必要なのか、人員の試算を行い、それをだれが担うのか(発生地保健所職員なのか、応援の職員なのか)を事前に決めておくべきであると痛感しました。次に、農政部局との関係、情報共有のあり方です。人吉保健所では、地域振興局農林部主催の防疫演習に参加するなど、関係を強化していましたが、それでも情報が入ってこないといった問題がありました。

鳥インフルエンザ発生時において保健所では、鳥インフルエンザへの対応だけでなく、当然、日常業務もあり、しばらくは膨大な業務量でした。対応に問題点もありましたが、多くの方の支援や保健所職員の頑張りにより、どうにか無事に乗り越えることができました。これから先もいろいろな出来事が待ち構えていると思います。課題に一つひとつ真摯に取り組みながら、保健所長としての重責を果たしていきたいと考えています。